

～オレンジバルーンプロジェクト～

暖かい色であるオレンジには、すべての苦痛症状をほんわりとやわらげたいという思い
バルーンに描いた顔のような表情に、患者さんと一緒にいたいという思い

かんわ
緩和
ケア

Orange Balloon
Project

厚労省委託事業 緩和ケア普及啓発事業 (オレンジバルーンプロジェクト) の立場から

日本緩和医療学会 委託事業委員会

緩和ケア普及啓発WPG

(大阪府立成人病センター 心療・緩和科)

濱 卓至



背景

- 2007年4月「がん対策基本法」が施行され、**がん患者の療養生活の質の維持と向上**を目的として、「緩和ケア」を推進していくことが定められた。
- 2007年9月「がん対策に関する世論調査（内閣府）」では、「緩和ケア」について「十分知っていた」と回答したのは**9.8%**であった。

厚生労働省委託事業・緩和ケア普及啓発 オレンジバルーンプロジェクト（OBP）

- 2007年4月厚労省は、一般市民に対して「緩和ケアは死を待つだけのあきらめの医療」といった誤った考え方を改め、「緩和ケア」の正しい知識を持つことを目的とした緩和ケア普及啓発事業の実施計画を立案

厚労省 がん対策・健康増進課



日本緩和医療学会 委託事業委員会 緩和ケア普及啓発WPG

緩和ケア普及啓発事業関連団体協議会（11団体）

- 2008年度～ 日本ホスピス緩和ケア協会、日本死の臨床研究会
日本ホスピス・在宅ケア研究会、日本がん看護学会
- 2009年度～ 日本緩和医療薬学会、日本サイコオンコロジー学会
- 2012年度～ 日本癌治療学会、日本臨床腫瘍学会
日本放射線腫瘍学会、日本ペインクリニック学会
- 2013年度～ 日本麻酔科学会



シンボルとしてのロゴマーク

- 暖かい色である**オレンジ**には、すべての苦痛症状をほんわりとやわらげたいという思い
- バルーンに描いた顔のような表情に、患者さんと一緒になりたいという思い



使用希望の方は、公式HPより申請



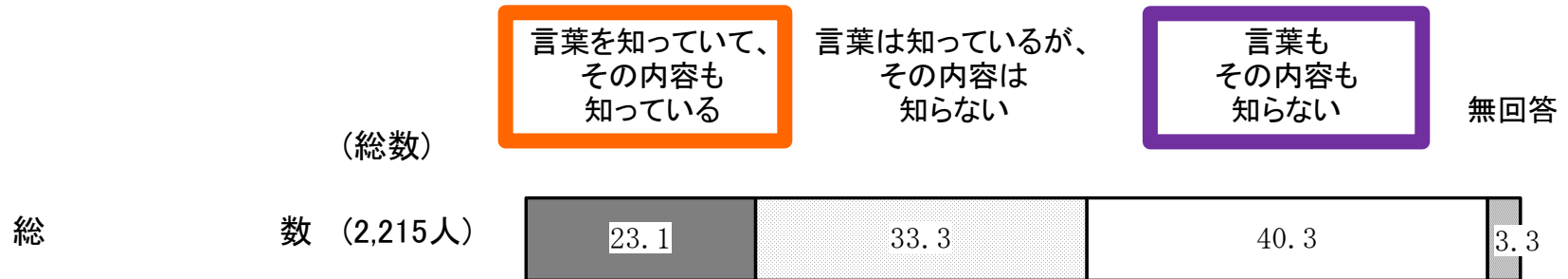
背景

一般市民を対象とした「緩和ケア」の認識度調査

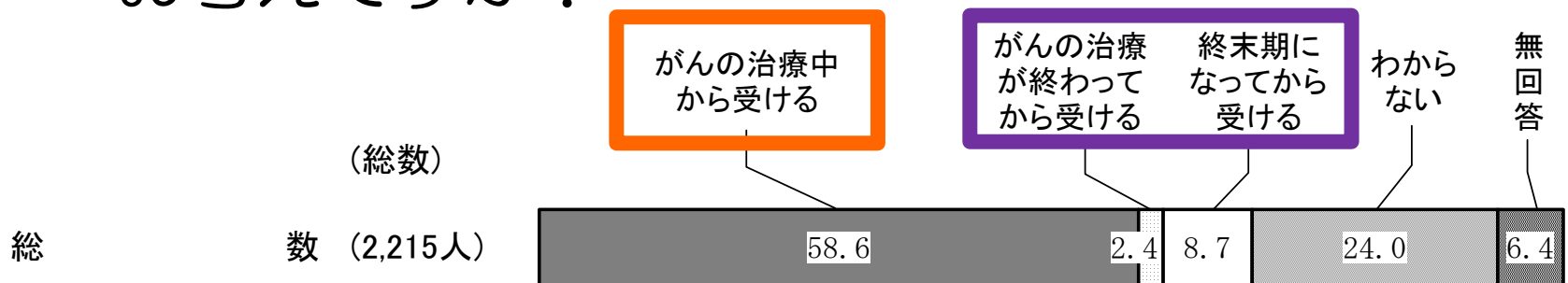
- 対象：全国の満20歳以上の男女6,000人
- 期間：2008年11月～2009年1月
- 方法：郵送配布郵送回収法
- 抽出方法：住民基本台帳に基づく層化2段無作為抽出法
- 項目
 1. ご自身のがんの経験
 2. ご家族のがんの経験
 3. 「緩和ケア」の認知度
 4. 「緩和ケア」についての情報
 5. 医療用麻薬の認知
 6. 「オレンジバルーンプロジェクト」の認知
 7. その他、「緩和ケア」の考え方やイメージ

「緩和ケア」の認知度

- 「緩和ケア」という言葉をご存知ですか？

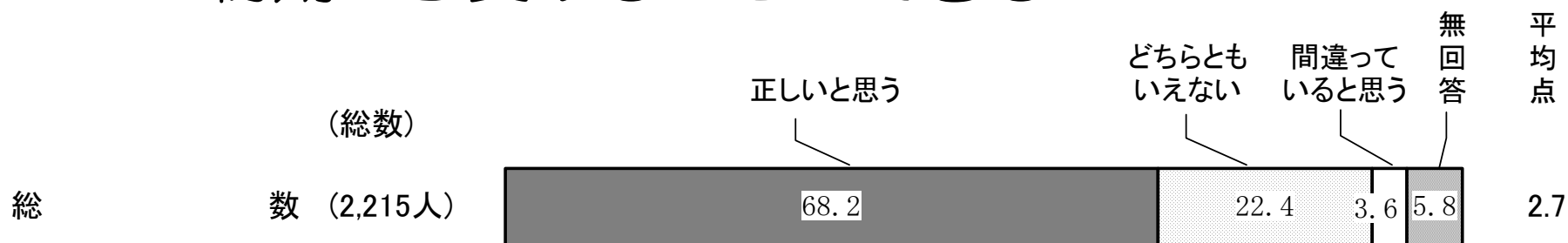


- 「緩和ケア」を受ける時期についてどのようにお考えですか？

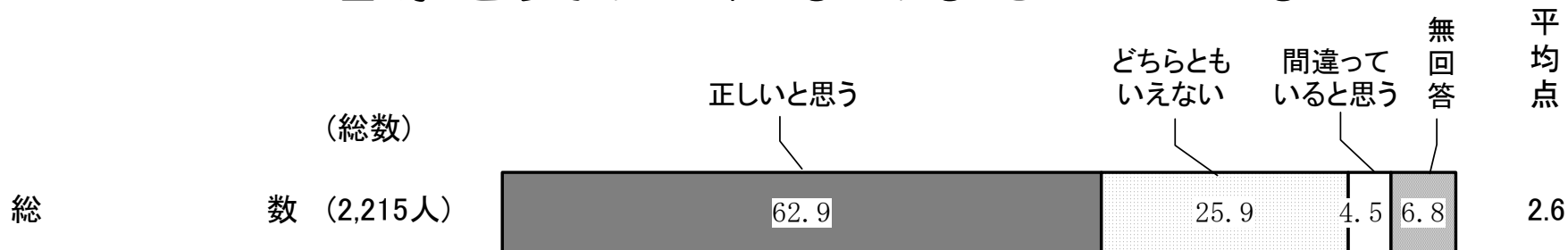


「緩和ケア」の考え方・イメージ

- 「緩和ケア」はがんの終末期だけでなく、がんの初期から受けることができる



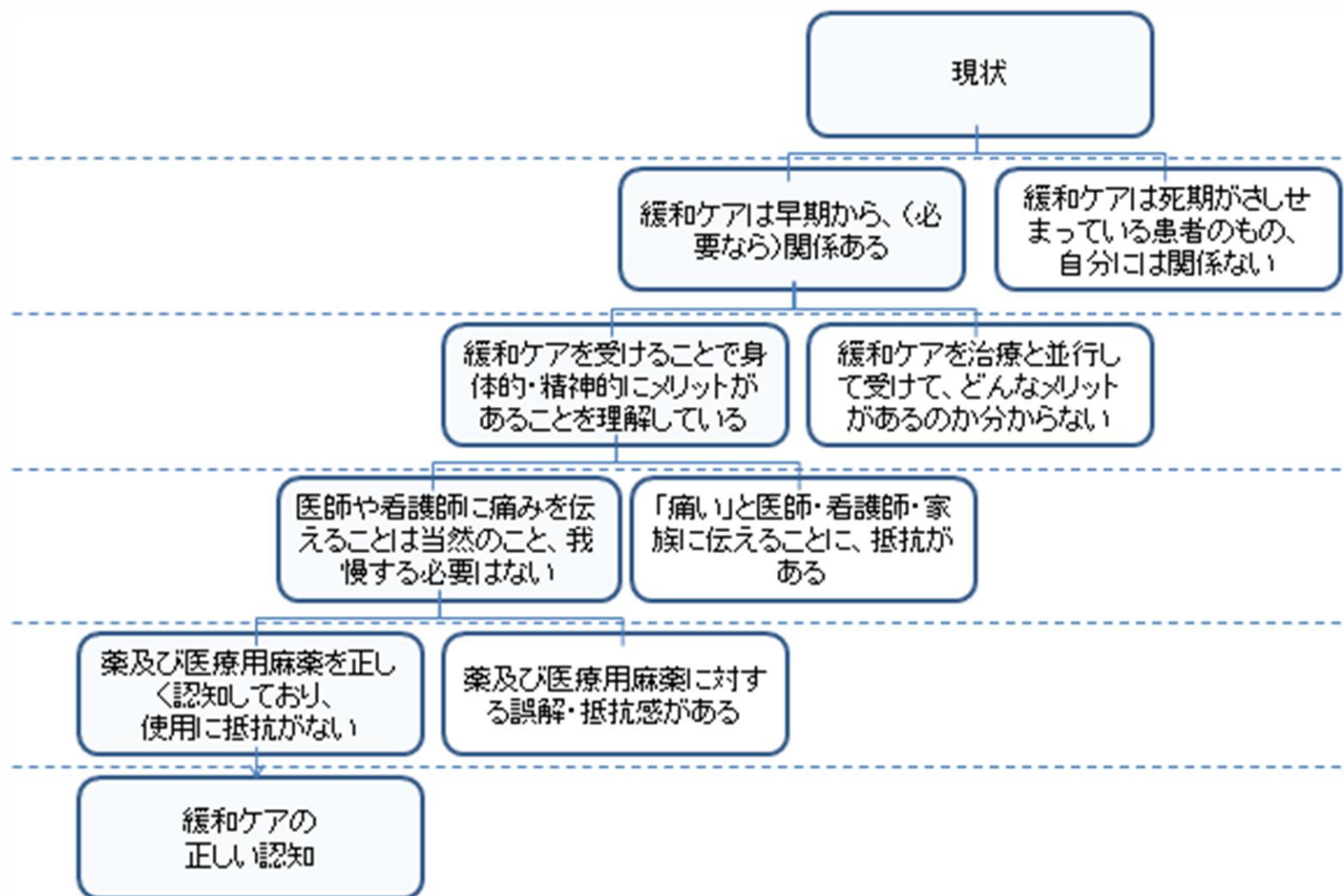
- 緩和ケアを受けることによって、がんの治療を受けられなくなることはない



緩和ケアに対する正しい認知形成のためのバリア (2011年面談聞き取り調査より)

1. 「緩和ケア」は死期がさし迫っている患者のもので、自分には関係がない。
2. 緩和ケアを治療と並行して受けることで、どういうメリットがあるのか分からない。
3. 「痛い」と医師・看護師・家族に伝えることに対して抵抗がある。
4. 薬の摂取量が増えることに対して抵抗がある。
5. 緩和ケアで使われる医療用麻薬に対して抵抗がある。

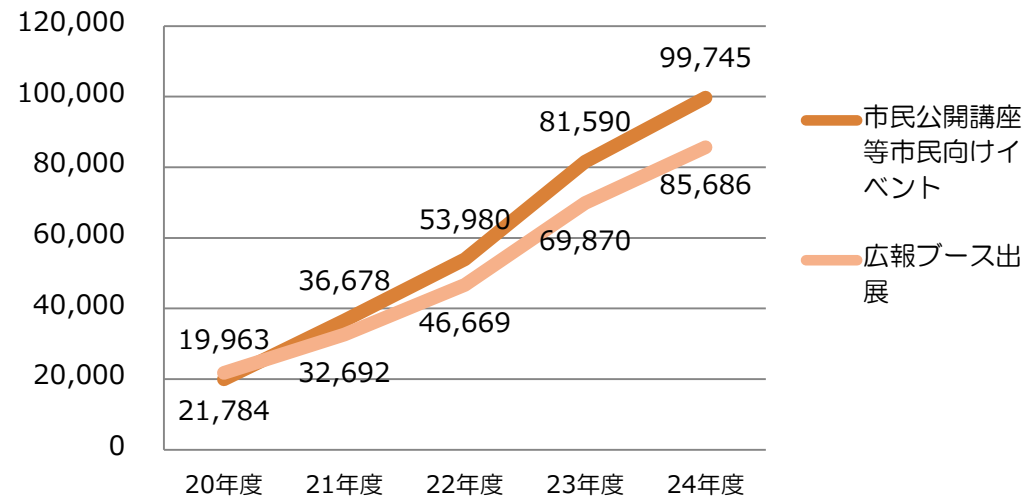
緩和ケアの正しい認知の為のperception flow



①市民公開講座等のイベント開催



イベント参加者数累計



広報ブース出展



制作物の配布

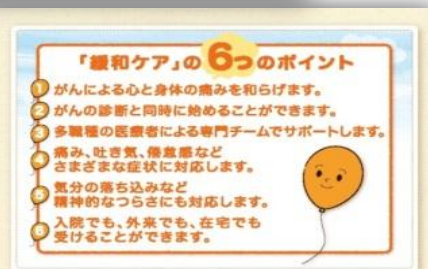


②緩和ケア普及啓発のための制作物

ポスター
A2サイズ



ピンバッチ



風船(表)



風船(裏)

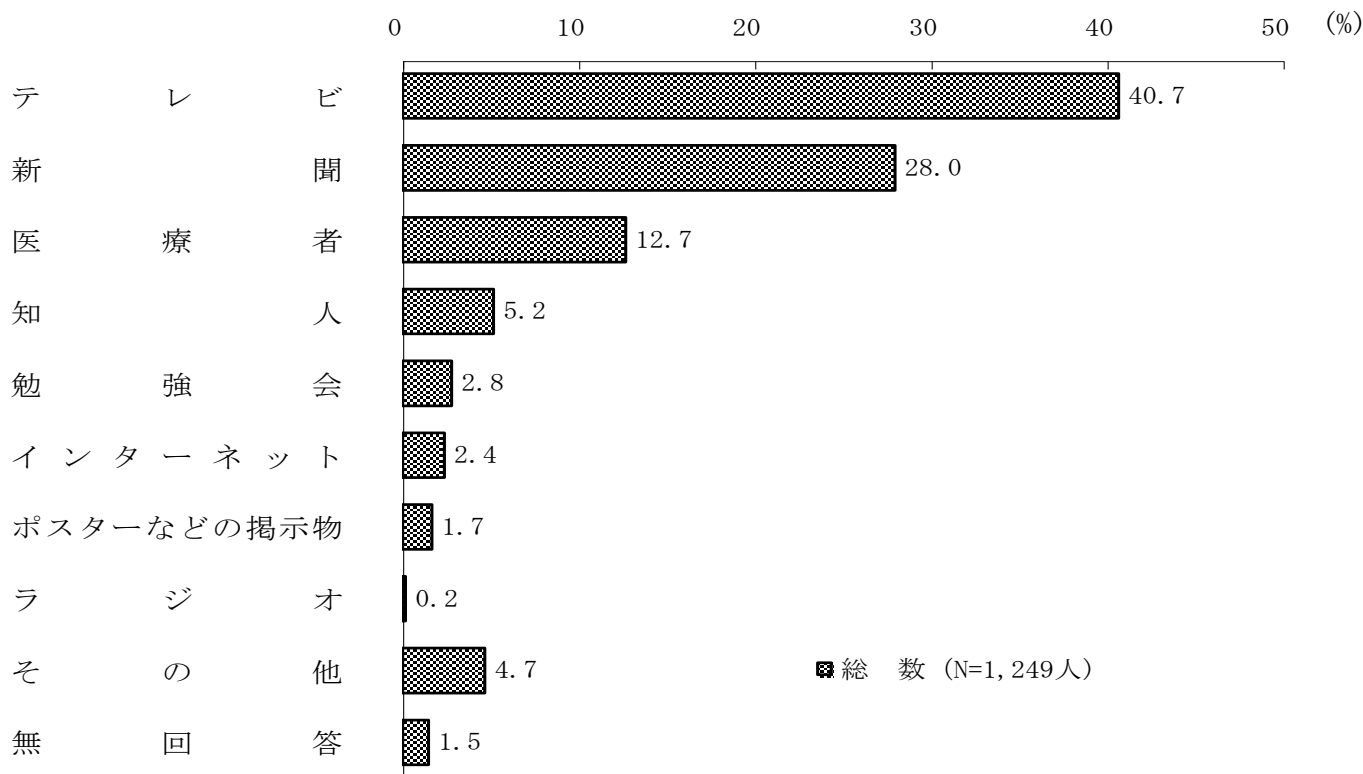
相談カード



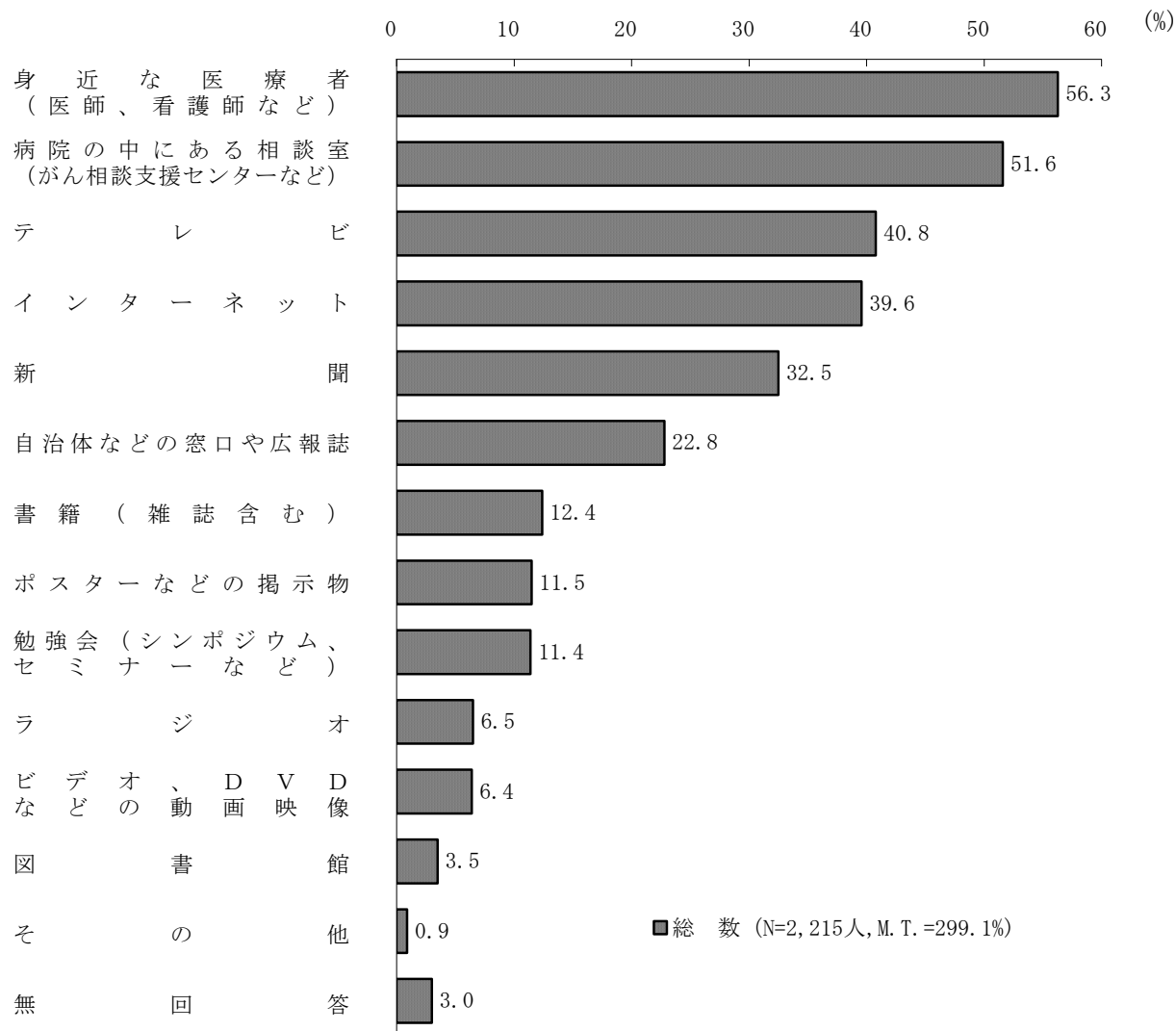
Orange Balloon Project

「緩和ケア」の情報について

- 「緩和ケア」という言葉は、最初に何でお知りになりましたか？



「緩和ケア」の情報を得る手段として、アクセスしやすいと思う方法（複数回答）



内閣府「がん対策に関する世論調査」 平成25年1月

母集団：全国の市区町村に居住する満20歳以上の
 日本国籍を有する者
 標本数：3,000人
 地点数：203市区町村210地点
 抽出方法：層化2段無作為抽出法

図9 緩和ケアの認知度

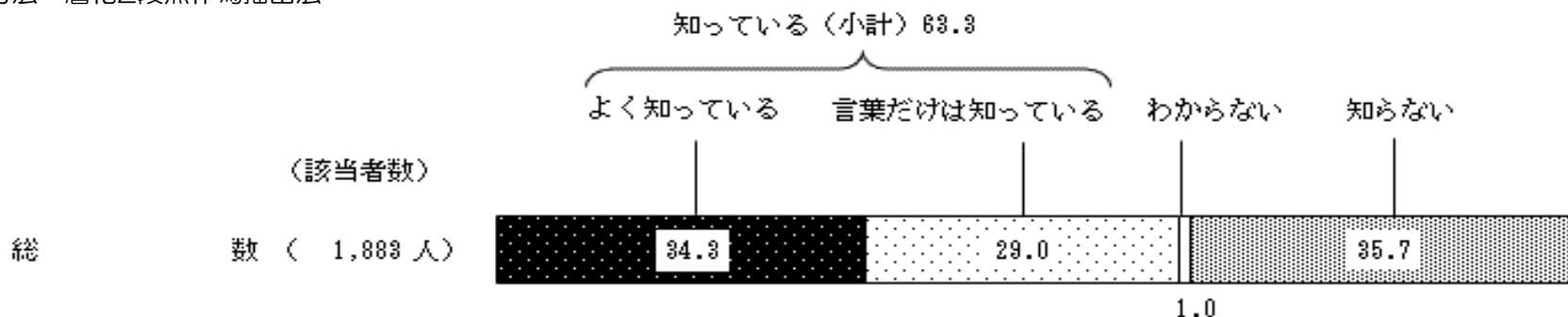
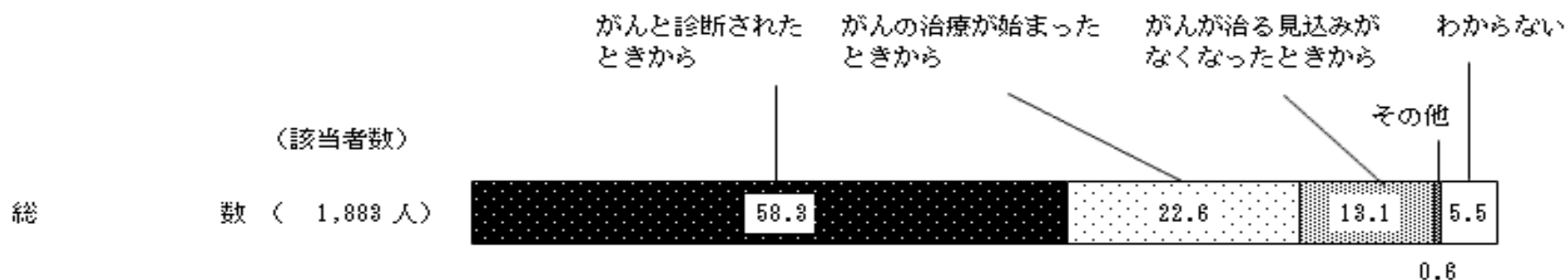


図10 緩和ケアを開始すべき時期の認識



がん治療医の先生方と一緒に

- 「緩和ケア」という言葉だけではなく、
 - ① 診断時から、がん治療と並行して緩和ケアが受けられること
 - ② 地域・自宅でも緩和ケアが受けられること
 - ③ 医療用麻薬の正確な情報
- 「緩和ケア」の正しい知識を普及啓発していくためには、医療従事者（がん治療医）を通じて情報発信をしていくことが重要

厚生労働省委託事業・緩和ケア普及啓発 オレンジバルーンプロジェクト (OBP)

苦痛をやわらげることは
がん治療に、自分らしく
取り組む気持ちを支えます

生きる勇気
緩和ケア
がん治療

痛み、だるさなど、
様々なからだの不調だけでなく
これからへの不安や、気力の低下、不眠など
心のケアもおこなうのが「緩和ケア」。
笑ったり、語ったり、食べたり、眠ったり…
あなたと大切な家族が
これまでのように暮らすための医療です。
いま、全国各地で、医師や看護師、薬剤師、
医療ソーシャルワーカー、
カウンセラー(臨床心理士等)など
多くの専門家で構成された
「緩和ケア」チームが活躍しています。
あなたの悩みや心配を、
私たちに聞かせてください。

この病院には
がんと向き合うあなたを
支えるチームがあります。Orange Balloon
Project

がん 緩和
ケア

がまんしない、がん治療 緩和ケア
<http://www.kanwacare.net/>

WBCによる「緩和ケア」の実績
緩和ケアとは、生命維持や治療による痛みを軽減し、いよほ患者とその家族に
対し、心身の苦痛や不安を軽減し、生活の質を向上させること。がん治療の最中、最
後に併発し、医療ケアが難しくなる患者を支援することによって、質の高い生活、
死を穏やかに迎えるためのケアとして、がん治療の最中、最後に実施されるプロ
ジェクトです。
<http://www.kanwacare.net/kanwacare.html>

厚生労働省委託事業 JSPM 日本緩和医療学会

